

第1回 定例会 一般質問

新型コロナウイルスの対応をするため、執行部、職員の時間の拘束を少なくする配慮をしました。
公明党市議団では、利根川議員、駒牧議員、宮林議員が通告の取り下げをし、岡崎議員と私は通告の一部を取り下げ、質問を1回のみとし時間短縮をしました。
みなさまの声を市政に反映する貴重な場ではありますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

まちなかにベンチの設置を！

ベンチを設置は、単なる休憩場所をつくるだけではなく、自宅から目的地までの移動に途中ベンチなどで休む場所があれば、歩いて行くことができる、休むところがないから外出はしたくない（できない）というお声をいただきました。

ベンチは、点と点をつなぎ線とするための重要なツールであり、高齢者世代では、外出支援、自立支援にもつながり、子育て世代には、子どもの外遊びの誘発や交流の場となることと思います。各世代からのニーズに応えるためにも、まちなかにベンチの設置を訴えるものです。

答弁：今後、道路・公園の整備を進めていく中で、空間に余裕が生まれるところや、公園利用者等の安全性を確保できるスペース等がある場合にはベンチ等の設置について順次考えていきたい。

本市も、国で推進する「居心地がよく歩きたくなるまちなか」づくりを目指し、取り組みに賛同し、昨年8月から「ウォークブル推進都市」として、今後新たな時代のまちづくりを進めていくところです。

また、来年度から取り組む「緑とまちの魅力向上基本構想」の策定にあたり、こうした考えを反映していきたいと考えています。



地域共生社会の実現を！

朝霞市は現在5圏域で、第1圏域（内間木）の高齢者の人口が他と比べて約1000人多い状況で範囲も広域です。地域共生社会の実現に向けた、より良いサービスを提供できるのか心配です。地域包括支援センターの強化を掲げる中で、介護保険制度の中での事業ではあっても、当事者家族の障がいのある方との連携や子育て世代でダブルケア状態にある家族、そして仕事の対応などなど、多様なニーズをまずは抱えるという多忙な業務の日々です。

現状ままでは、これから迎える超高齢社会への対応は難しいと危惧します、今後どのように考えているのか伺います。

答弁：高齢者人口や圏域の広さなど考慮して圏域の見直しについて検討したい。具体的には5圏域から6圏域に細分化し、きめ細やかな対応を可能とすることなど想定しています。

また地域包括支援センターの人員体制を含め機能を強化することや、地域共生社会のさらなる促進も見据えて、様々な地域生活課題に対応できるように、基幹型の地域包括支援センターの設置についても、現在、策定中の第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画に位置づけることを検討したいと考えております。

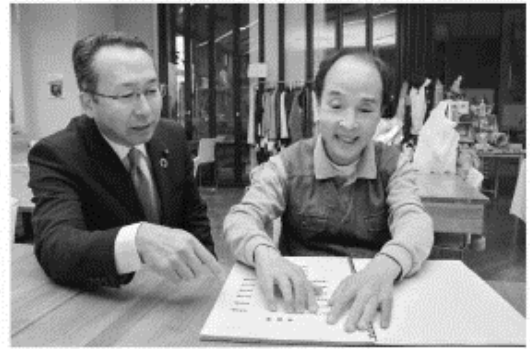


日頃の地域活動 及び 実績

喫茶店 点字メニュー導入 視覚障がい者 注文しやすく

埼玉・
朝霞市

中澤さん(右)と点字メニューを確認する
遠藤市長



公明新聞 3月23日付全国版に掲載

埼玉県朝霞市にある市産業文化センター内の喫茶店「世界のトモザチcafé COZY」はこのほど、視覚障がい者向けに点字メニューを導入した。民間の飲食店が点字メニューを作成したり、出入り口に簡易スロープを設置したりする際に、市が費用を補助する制度を活用した。

補助制度は昨年から実施しており、市内の民間事業者が対象。①点字メニューやコミュニケーションボードなどの作成に上限5万円 ②折りたたみ式スロープや筆談ボードなどの購入に同10万円 ③簡易スロープや手すりなどの工事の施工に同50万円 などだ。

店をよく利用するという視覚障がい者の中澤さんは「注文しやすくなり、みんな喜んで思う」と笑顔で語っていた。店長の名取直子さんは「点字メニューを導入して終わりではなく、これからも、お客さま一人ひとりに丁寧にコミュニケーションを取りたい」と話していた。

公明党の遠藤光博市議は2017年6月の定例会で補助制度の実施を提案していた。

朝霞市バリアフリー関連補助金を活用し点字メニューを作成
日頃より自身も点字名刺を活用しています

ペット防災手帳が完成
人の防災を進めるなか形に
朝霞市HPより入手できます



バリアフリーの推進強化
朝霞市中央公民館裏出入口
利用者からのお声から実現



手作りマスクの作製を応援
ミニデイサービス利用の高齢者
さんらが丁寧につ作っています



地域防災アドバイザーとして
幸町団地自治会老人会にて
依頼いただき防災講座開催



復興応援と根性ひまわり
十世代。今年も希望の花
を咲かせます



おへそバンド出演
膝折宿町内会にて
お声かけに感謝です